

## ◆【全国発信記事】大阪支部

### —海に親しむ活動—

#### 世界の海で活躍する船員の魅力を子どもたちに伝える 白浜町立第一小学校と第二小学校の児童が船と貿易を学ぶ

11月5日、和歌山県の白浜町立白浜第一小学校と白浜第二小学校の五年生41人を対象に白浜町教育委員会協力のもと、本組合から執行部と職場委員が参画して出前講座を開催した。小学五年生は、社会科で貿易について学習するカリキュラムになっており、日本の貿易を担う船舶・海運事業の重要性と「船員」という職業やその魅力を知ってもらうため、琵琶湖汽船株式会社職場委員である増田純船長と新日本海フェリー株式会社職場委員の大門貴光機関士が講師となり「日本と世界の貿易」について授業を行った

今年度の出前講座は、昨年と同様に新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、事前に教育委員会や学校側と綿密に打ち合わせを行い、フィジカルディスタンスを充分確保するなど感染予防対策を万全にした上で開催した。

講座の準備を整え、本組合からの講師たちが教室に入ると、白浜第一小学校児童代表から元気の良い歓迎のあいさつがあり、講座が始まった。

講座は、日本の輸出入品ランキングや貿易相手の主要国について、クイズを交えながら進められた。最初に、世界との貿易は船舶輸送が中心であることや船種（タンカーや貨物船、コンテナ船など船の種類）について説明。さらに船舶の大きさや貨物量などを、身近な物と比較して解説することで、参加した児童たちの興味や関心を深めた。

児童たちからの質問の時間では「船舶燃料の種類」「船が沈む可能性」「船の仕事で大変なこと」などのさまざまな疑問に、講師である増田船長と大門機関士がわかりやすく答えた。

また、世界中の海で活躍し、世界と日本を結ぶ海上輸送を担う船舶には「船員」という職業が欠かせない存在であることを紹介し、授業の最後に白浜第二小学校児童代表からお礼のあいさつがあり、出前講座を終了した。

次年度以降も次世代を担う小学生を中心に、海や船への関心の拡大と船員職業の魅力発信のため、教育委員会や学校と連携し継続した活動を実施していく。

#### 白浜町一子どもたちが海に親しめる豊かな環境

白浜のシンボルである円月島は、正式名称が「高嶋」という臨海浦の南海上に浮かぶ高さ25mの小島で、島の中央に円月形の手蝕洞が開いていることから「円月島」と呼ばれ、親しまれている。

円月島に沈む夕陽は「和歌山県の夕陽100選」に選ばれており、陽の沈む夕景の美しさは格別。この円月島周辺の海底を華麗に泳ぐ魚の群れや、深いブルーの海を眺めながらの優雅なひとときを、白浜海底観光船株式会社のグラスボート「せと」と「りんかい」がエスコートしてくれる。ガラス越しの魚たちを眺めた後は、グラスボート乗り場に隣接する「京都大学白浜水族館」で魚たちを見学することもできる。

#### 京都大学白浜水族館

「京都大学白浜水族館」では白浜の海に生息する魚が水槽に飼育されているほか、標本なども展示されている。この水族館は京都大学が運営する臨海実験所の附属施設で、1930年に開館し、建物はグラスボート乗り場のすぐそばにある。

展示コーナーには第1水槽室「回遊魚とサメ」、第2水槽室「様々な無脊椎動物と群れ魚」、第3水槽室「マリンギャラリー」、第4水槽室「すみ場所別展示と魚類」などがあり、約500種類の飼育水族を見学できる。

入館最初の水槽は水量240トンの大水槽で、アジの仲間では世界最大の全長1mを超えるロウニンアジが飼育されており、その大きさは迫力満点。白浜近海と伊豆大島でしか見つかっていない鮮やかな黄色が特徴のオオカワリギンチャクもマリンギャラリーで見ることができる。

## 活動方針 — 船員の確保・育成（海に親しむ活動） —

本組合は、国民一般に対する海事思想の普及の一環として、児童・生徒の海や船への関心の拡大や船員職業に関する認知度の向上を図るべく、体験乗船や地引網体験の実施、教育機関を訪問しての船員職業の魅力伝える講話など、海に親しむ活動を積極的に推進している。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していたイベントの実施を見合わせた地域もあったが、フィジカルディスタンス（人との身体的距離）の確保、乗船前の検温や消毒の実施、フェイスシールドの装着など、万全の対策を講じたうえで活動を展開した。

コロナ禍にあって、引き続き参加者の安全確保や感染防止対策の徹底を大前提に、次世代を担う子どもたちが船や船員に魅力を抱き、一人でも多くの若者が職業として船員を志すよう、児童・生徒を含む幅広い年齢層が海に親しみ、海に学び、海への理解を深める活動を関係者とも連携し積極的に推進していく。

「海員だより」